茨城県都市計画協会

いばらきまちづくり通信

# つどえ～る！

# 特 集
# みんなで進めるまちづくり

CONTENTS


| | |
|---|---|
| ＜特集＞みんなで進めるまちづくり | 2－3 |
| ＜市町村探訪＞<br>住民と市が協働して・・・<br>神立地区コミュニティセンター建設事業<br>（土浦市） | 4-5 |
| ＜まちづくり団体の取り組み＞<br>～こんなことやってます～<br>人と環境とコミュニケーション<br>－まちづくり彩生塾（さいせいじゅく） 龍ケ崎市） | 6-7 |
| ＜街角レポート＞ 藤沢市 箱根町 土浦市 | 8- 9 |
| ＜情報スクラップ＞ | 10-15 |
| ＜いろはにホへ都市計画＞<br>都市計画ミニ知識） 都市計画の住民提案制度 | 16 |


さる11月9日（土）、下館市コミュニティプラザ（下館駅前ビル「スピカ」6階）にて、“まちづくりシンポジウム2002”を開催しました。

「みんなで進めるまちづくり」と題し、講師に㈱都市研代表取締役　塩原　献 先生を迎え、まちづくりへの住民の参加のあり方についてご講演をいただくとともに、コーディネーターに塩原先生、パネリストに下館でまちづくり活動を行っている住民の方や行政代表を迎えてパネルディスカッションを行い、まちづくり活動の現状や課題について活発に意見が交換されました。

併せて、平成 14 年度の茨城県うるおいのあるまちづくり顕彰事業のほう賞受賞者の表彰式がとりおこなわれました。

Vol 7
平成14年12月15日

# 特　集　みんなで進めるまちづくり

## 基調講演

「みんなで進めるまちづくり
～温もりあふれるまちを目指して～」
講師　㈱都市研代表取締役　塩原　歓

【要旨】

プロローグとして、「まち」と読む漢字には、一般的に「市」、「坊」、「町」、「街」、「邑」と5つほどあり、漢字のもつ意味から、「まち」の大きさ、人の集り方などいろいろな意味がありますが、多くの人々が集団で生活する所ということがわかります。「自分のまち」というときに、どの「まち」を取るのかによって、形も考え方も異なってくることになります。

実際に私たちが考える「まち」には、いったい何があるのか。そこには、住む・働く・遊ぶ・学ぶという4つの機能が充足されている必要があります。そして、その4つの機能を支えるために、いろいろな施設（道路や住宅、学校、商店など）が必要であり、その施設が充実しているほど、住みよいまちになります。

このみんなが住む場所を、1つの容器として捉えると、その容器はいくつかの変化する条件を持っており、1つ目は人の集まってくる規模と立地条件、2つ目は住む人の考え方、3つ目はまちの活力（経済活動や文化活動など）の大小、4つ目は他のまちとの協力関係のあり方、5つ目は自然環境との関わり方、この5つの条件によってまちの形は変化します。ただし、今私達が考えているまちづくりは、既にまちが存在しており、そのまちをどのようなまちにするのか、どうすれば良くなるのか、という点をまず考えなければなりません。そして、その目標のために、市民や行政、企業あるいは来訪者がそれぞれ何をするのか、みんなで考えることが、まちづくりの基本になります。この点を忘れると足の引っ張り合いになってしまうこともあります。

そのような事をなくすために、まちづくりには基本的なルールがあります。まず基本認識として、まちは公共性の非常に強いものであり、個人のものではないということがあります。そして、そこにいるいろいろな考えの人が、お互いに協力し合い安心して暮らせる所をつくること、この2つの点が基本になっています。さらに、まちづくりへの責任は、行政だけではなく住む人、働きに来る人、土地を持っている人など、すべての人にまちを育て、守る責任があります。次に、話し合いを進めていくわけですが、その際に、話をするまちの「領域」を決める必要があり、それは市全体ではなく、自分達が住んでいる身近な所からスタートしていくことが良いと思います。そして、実際の話し合いにおいては、自分の意見は素直に語り、相手の意見を良く聞き、何を伝えているのかを良く考えます。そうするとお互いの理解が深まり、お互いの生き方を発見し、それを尊重していくことが出来ます。そのような話し合いを進めると、まちの課題と将来像が見えてきます。そして次に、誰が何をするのかという、役割を決めることが実は大事なことであり、その方策を順次実行していく、その積み重ねが重要になっていきます。

さて次に、まちづくりの目的とは何か。1つ目は、皆さんの暮らしを良くする環境をつくること。2つ目はまちの活力（エネルギー）を何に求めるのかということです。日本の産業構造は大きく変わってきており、第三次産業が多様化しています。このサービス業を中心として活力を見出します。そして、地域にある資源をもう一度見直し、その中から新たな産業を生み出す時代となっています。まちに活力があり、暮らしの良い環境であれば、市民が安心して暮らせて、来訪者も一緒に楽しめます。来訪者も楽しめないまちは、生きていけません。3つ目は、文化をつくるということです。これは難しい話ではなく、歴史的なものを守り、皆さんが生活の中で行っていることに誇りを持ち、その情報を発信していくということです。そこから独特の文化が育っていきます。このような、守り育てていくことが、そのまちのステータスを少しずつ作っていくことになります。ステイタスは、豊かで温もりのある心に裏打ちされたものでなければいけないと思います。市民の心がまちを支えるなら、守り育てていく過程を含め生活文化情報を発信しましょう。そこから、みんなで進めるまちづくりが始まっていくのではないでしょうか。

みんなで進めるまちづくりとは、まず皆さんで考えて、皆さんで話し合うことが非常に大事です。「何かをしなければならない」と肩肘張らず、自分が住んでいる所をまず良くする。それを隣のまち、地域へ繋げていく、この力が新しい文化を生み出し、あたたかなコミュニティを生み出していくことになると思います。

## *パネルディスカッション*

・コーディネーター：塩原　歓
・パネリスト：
　湯浅　眞男（(社)茨城県建築士会下館支部長）
　野澤　外茂子（景観形成市民の会）
　平沢　洋一（ルネッサンス委員会委員長）
　益子　晴美（（株）常陽銀行個人事業部下館ローンプラザ）
　高橋　幾夫（下館市都市計画部長）

まず、パネリストの皆さんから、現在行っているまちづくり活動の内容や下館のまちづくりへの思い、また、市の取り組みについてお話をいただきました。そして、その活動を行ううえでの課題や問題点について、活発に意見が交換されました。

ディスカッションの最後には、観客席を交えての議論となりましたが、コーディネーターの塩原先生は、市民の進めるまちづくりというのは、市民が思っていることを吐きだすことから第一歩が始まり、それが市民の皆さんの責任でもあるとお話下さいました。

## *お わ り に*

今回のシンポジウムには、約300名の市民の皆さんや行政の担当者の方にご参加いただきました。パネルディスカッションでは、市民の皆さんを交えた展開となり、有意義な時間になったのではないかと思います。本シンポジウムが、何らかのまちづくりへのきっかけになり、市民の皆さんの気運がさらに高くなることを期待します。

## *茨城県うるおいのあるまちづくり顕彰事業ほう賞受賞者*

【まちづくりグリーンリボン賞】
◎神立地区コミュニティセンターの建設
　受賞者：土浦市
◎町立図書館の建設
　受賞者：十王町
　　：（株）三上建築事務所
◎商業店舗の建設（（株）ライトオン日立大沼店）
　受賞者：（株）ライトオン
　　：（有）ＳＯＥ建築設計事務所
　　：大和ハウス工業（株）
◎イトヨの里泉が森公園整備
　受賞者：イトヨの里泉が森公園運営委員会
　　：日立市

【まちづくりグッドサイン賞】
◎ゲートサイン
　受賞者：守谷市

※うるおいのあるまちづくり顕彰事業とは
　まちづくりについて、県民の皆さんの理解と協力を得ること、および意識の高揚を図ることを目的として、まちづくりに功績のあった方々を表彰しています。
　「まちづくりグリーンリボン賞」は、各種のまちづくり事業に貢献した方や優れた都市景観の形成に寄与した方などを表彰しています。
　「まちづくりグッドサイン賞」は、周囲の景観に配慮した、優れた屋外広告物を設置した方を表彰しています。